



宇部市は、令和7年度から学生の感性と行動力をまちづくりに反映させて“若者に選ばれるまち”を目指す「日本一学生が活躍するまちづくり」事業を開始しました。これまで7回のワークショップを終え、学生自らの視点・発案をまちづくりに反映させることを目指し、学生23人が8グループに分かれて市政へ課題解決プロジェクトの提案をしました。

『政策発表会』

『自分で考え自ら行動した』成果として政策提案

全7回のワークショップや篠崎市長や市職員との対話を経て、学生23人が8グループに分かれて、課題解決プロジェクトを発表する政策発表会が開催されました。

篠崎市長をはじめ約60人の市職員が参加し、学生は自らの感性と行動力をまちづくりに反映させるための思いと企画を発表しました。

発表された全8案は次のとおりです。

- ・ストーリー性をもった北部地域振興計画
- ・宇部市つながる奨学金
- ・簿記から始まる金融教育
- ・宇部市の未来を育む“学びと体験”プロジェクト
- ・大学生視点SNS
- ・「Ube Chat」～不登校児童・生徒向けコミュニティづくり～
- ・学生活躍デジタル支援ツール「UBE QUE」
- ・学生活躍相談窓口「イベラボ」

※注意事項

本発表会での提案については、現時点で全てが施策に反映されるとは限らないことにご留意願います。

宇部市で活動する学生や市政に関する情報とつながりたいという思いを形にした「プラットフォーム」づくりを訴える提案や、自らの目線を活かした情報発信に関する提案など全8案は、いずれも事業や活動の継続性を前提とした内容で、「日本一学生が活躍するまちづくり」実現に向けた着実な一步を感じさせました。

全ての発表を受けて篠崎市長は「半年間にわたって、問題意識を持って市の課題解決に向けて取り組んできた皆さんに感謝を申し上げます。この経験は皆さんの今後のキャリアにとってきっと大きな糧になります。学んだことを今後に活かしてください。」と伝えるとともに、市職員に対して「発表してもらった課題は、市の課題として確実に存在するものです。しっかりと受け止めて、暮らしやすいまちづくりに活かしていきましょう。」と呼びかけました。



発表会後、学生を代表して感謝状を受け取った山口県立大学の武石麻央さんは「半年間で自分自身が成長したと感じます。宇部市と向き合うきっかけになっただけでなく、自分の今後について考える最初の一歩になりました。」と話していました。



発表された提案を踏まえ、宇部市では、取り入れることのできる提案については学生を政策アドバイザーに任命し、令和8年度以降の事業構築に向けた準備を共に進めていくことにしています。